

産科医療補償制度 第 97 回原因分析委員会 議事要旨

日時：2021年6月2日（水） 16時00分～16時58分

場所：公益財団法人日本医療機能評価機構 会議室

出席者（委員）：石川浩史、茨聡、上塘正人、川田綾子、楠田聡、佐藤昌司、
下屋浩一郎、鈴木俊治、鈴木利廣、関沢明彦、高田昌代、
豊田郁子、前田津紀夫、馬目裕子、宮澤潤、村越毅、吉田幸洋
（敬称略）

議事概要：

1) 原因分析委員会における報告書の確認・承認状況等について

○2021年4月末時点で累計2,876件の原因分析報告書が承認されたことが報告された。2020年度上期はコロナ禍の影響で事務局の半分が在宅勤務となったこと等から報告書の作成・送付に遅れが生じていたが、10月以降、ITインフラの整備等の対応を進めてきたため、三度目の緊急事態宣言が出された状況において、在宅勤務と出勤を併用しながらも生産性を大きく落とすことなく報告書の作成・送付が進められたことが報告された。

○同一分娩機関での複数事案目の原因分析の結果、同じ診療行為等において医学的に厳しい評価が繰り返された場合に一層の改善を要請する「別紙（要望書）」対応について、2021年4月末時点での実施件数は104件であること、改善要望を行った項目については、「胎児心拍数陣痛図の判読と対応」が43件と一番多く、「診療録の記載」「子宮収縮薬の投与方法」「分娩監視方法」の順となっていることが報告された。

2) 原因分析報告書全文版（マスキング版）の開示および原因分析のデータ等を活用した研究等の状況について

○原因分析報告書全文版（マスキング版）については、開示方法を変更した2015年11月以降2021年4月末までに11件の利用申請で延べ1,726事例の報告書を開示したこと等が報告された。

3) 原因分析報告書要約版の公表について

○過去に不同意の意思表示を受け未公表としている要約版について、2020年11月より、該当の保護者および分娩機関等に対し、要約版公表の意義等を説明のうえ要約版公表についての理解を求める案内文書の送付を始め、2021年5月末までに送付はほぼ完了済みであることが報告された。また、文書を受領した保護者および分娩機関から、何件かは「公表してほしくない」等の申し出があり、改めて説明を行うことで要約版公表にご理解いただいたケースもあれば、ご理解いただけるよう継続しての取り組みが必要なケースもあることが報告された。

4) その他

○今後の原因分析の改善に活かすため、原因分析報告書を送付した保護者と分娩機関を対象に、2021年度中に原因分析に関するアンケートを実施予定であり、実施方法や内容等の詳細は検討中であることが報告された。

以上